

項目	内容	対応
全般		
	課題に対して、取組の方向性が明確に分かるような表記になっているとよいのではないか。	現状、課題に対する取組の方向性が多岐に渡ることから、現案のとおりとする。
	県としてどこまで支援するのか、それに対して市町がやるべきところはどこなのかをはっきりさせていくのが良い。	県・市町ともに厳しい財政状況にあるため、各主体の事業内容や実施方法は適宜検討していく。
	県の目指す日本語教育のゴールがどこであり、そのための体制をどう作るかについて、イメージを共有する必要があると思う。	まずは、空白地域に居住する外国人が日本語を学べる環境の構築を進めていく。その推進体制については、地域日本語教育連携調整会議を中心に、各主体及び関係者が連携して取り組んでいく。
	当団体で作成している在住外国人向けの日本語を学ぶ冊子について、タイ語版以外の言語も作成して頂けないか。	今後の教材研究の中で検討していく。
	全く日本語ができない外国人のために、『やさしい日本語』で話してみよう！も多言語でも作成するのはどうか。	『やさしい日本語』で話してみよう！は、日本人に向けた外国人とのコミュニケーションの方法を示した冊子であり、外国人への日本語学習支援とは趣旨が異なるため、多言語化する予定はない。
素案について／Ⅲ栃木県における地域日本語教育の現状と課題 (以下1:市町、2:地域の日本語教室、3:日本語学校・日本語教育機関等、4:外国人を雇用する企業、5:外国人住民)		
1	ボランティア団体が行っている教室にもなんらかの補助金があれば、より活発な活動ができるのではないか。	補助金等については各市町の財政状況とも関わるため、他団体の優良事例を紹介するなど、情報提供に努めていく。
1	日本語教室空白地域へボランティア人材を派遣するのはどうか。	まずは、地域日本語教育コーディネーターと連携し、空白地域におけるニーズ把握に取り組んでいく。

項目	内容	対応
2	小山市では「特定活動」の在留資格を持つ外国人が多いため、その方々への日本語教室に関する情報提供もお願いしたい。	様々な在留資格の外国人が日本語教室に関する情報を入手できるよう、より効果的な情報提供の方法を検討していく。
2	「学習カリキュラム」という言葉が気になる。「カリキュラム」というと学校で使われる決められたものというような印象を持ってしまう。	学習の過程も含めて適切なものとしたいため、「カリキュラム」という言葉を用いている。
5	「(6)子どもの就学状況」について、子どもへの日本語支援を取り上げたいなら、別の見出しの方が良いのではないか。	外国人住民のうち、子どもについての現状と課題を記載している項目であるため、現案のとおり「子どもの就学状況」とする。
5	子どもの支援については、地域日本語教育のスキームに入れるとしても、教育委員会等と連携し、大人と一緒にすることは避けた方が良い。	子どもの就学機会が確保されることを目指し、国や市町、関係機関との連携を図り、就学状況の把握や保護者への情報提供等に努めるとともに、就学せずに教室に通うことも想定されるため、子どもや保護者に対し教室に関する情報提供も行っていく。
<p>素案について／IV取組の方向性 (以下1: 地域における日本語教育に従事する人材の充実、2: 外国人住民のニーズに合わせた日本語教育機会及び内容の充実、3: 各主体及び関係者とのネットワーク構築等、4: 県民の理解と関心の増進)</p>		
1	日本語学習支援者の確保といった面について、コーディネーターの支援を頂きながらできるとありがたい。	地域日本語教育コーディネーターが地域に赴き、相談・助言等の支援を行っていく。
1	「地域における日本語教育の体制づくり」とは、具体的にどのようなもので、どのように進めていくのか。	まずは、空白地域に居住する外国人が日本語を学べる環境の構築を進めていく。その推進体制については、地域日本語教育連携調整会議を中心に、各主体及び関係者が連携して取り組んでいく。
1	日本語教育のレベルを上げるのなら、お金をかけてでも専門的な人材を活用すべきである。	いただいた御意見を参考にしながら今後検討していく。
2	地域の日本語教室を作るにあたり、こう進めていけば良いといった具体的などころまで支援するのか。	まずは、地域日本語教育コーディネーターと連携し、各地域におけるニーズ把握に取り組んでいくとともに、文化庁の「地域日本語教育スタートアッププログラム」の活用も促していく。

項目	内容	対応
2	日本語教室等の実施に当たっては、地域への周知方法や、地域の日本人住民の理解も重要ではないか。	市町や市町国際交流協会、企業等を通して周知するほか、併せて、他団体の優良事例を参考にしながら効果的な方法を検討していく。
2	教室でパソコンを揃えるなど、パソコンを持っていない方へのサポートは考えているのか。	パソコンやスマートフォンを持っていない方については、日本語教室における対面での学習を中心に行うことになる。
2	オンラインによる日本語学習支援について、具体的に決まっているものはあるか。教材や教え方、グループ分けなど難しいところもある。他のオンライン教室との交流もできればよい。	オンラインでの教授方法や、パソコン等の操作方法を学ぶ研修を行う予定であり、実際のオンライン教授での効果的な方法等については、今後検討していく。
2	「日本語学習に関する情報提供」について、決まっているものがあつたら伺いたい。	市町や市町国際交流協会、企業等を通じた周知のほか、より多くのツールを使った情報提供に努めていく。
2	外国人は自分のニーズを分かっていない場合も多い。周囲の受け入れ側のニーズや、外国人に対して日本語ができるようになる前の困難などを聞いてみるのが良いのではないか。	外国人住民に対し、日本語を学ぶ際の苦労点等について聴き取りを行っているところであり、今後、市町や市町国際交流協会等へフィードバックしていく。
2	個々のニーズに対応するなら、場所や時間を問わずに学習できるオンデマンド教材を作成する方が適しているのではないか。	文化庁の「つながるひろがる にほんごでのくらし」等のインターネット教材の活用促進に取り組んでいく。
2	県内にあるそれぞれの教室では何ができるのか、何に特化しているのかを見える化することで、何をすべきか、外国人がどこへ通うことができるかが分かってくると思う。	県内の日本語教室に関する情報を多言語で発信しており、その中で、教室の特色が分かるような記載を検討していく。
2	教室では日本語だけでなく、日本の文化や習慣を学べるようにし、学習者が興味を持って続けることができるような内容にするべきである。	学習者のニーズに合わせ、外国人がメリットを感じられるような教室活動が行えるよう、優良事例を紹介するなどして各主体に働きかけていく。
3	仕事をしていて教室に通うのが難しい外国人のために、企業が就業後に合わせて教室を開くのが良いと思う。	学習者のニーズに合わせ、外国人がメリットを感じられるような教室活動を行えるよう、各主体に働き掛けるとともに、各地域における外国人のニーズ把握に取り組んでいく。

項目	内容	対応
3	企業と日本語学校とのマッチングは、県又は市が主体となるのか。	日本語学校及び企業の意見を伺いながら、互いに連携できる体制を検討していく。
3	お祭りのようなイベントが近くにあり、その中の一角で日本語を学べるようなブースや、地域の日本語教室の情報を得られる場があれば良い。	国際交流イベント等において、日本語教室等に関する情報発信に努めていく。
3	日本語教育に専門性を持った人材と日本語学習支援をしたい企業とのマッチングができる仕組みがあると良いのではないかな。	いただいた御意見を参考にしながら今後検討していく。
3	人材バンクを作るのであれば、登録者が何に特化していて、どのような対応ができるのかまで明確にするのが理想である。	いただいた御意見を参考にしながら今後検討していく。
3	独学で日本語を学習している人へ向けて、インターネットの教材とのマッチングも必要ではないかな。	文化庁の「つながるひろがる にほんごでのくらし」等のインターネット教材の活用促進に取り組んでいく。
3	県国際交流協会の人材バンクには、日本語学習ボランティアはいるのか。企業等から要望があった場合は紹介ができるのか。	日本語学習ボランティアの人材バンクはない。